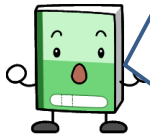


「指導と評価の一体化」のための学習評価（小学校国語科のポイント）【R2 NEW】



【R2 NEW】では、単元の目標に「聞くこと」の目標

話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)エ

が追加されています。

そのため、聞き手に対する指導上の留意点もより詳しく示されました。

「単元名」は、どのような言語活動を行うのかが児童に分かるように工夫します。

Step1
単元で取り上げる指導事項の確認

単元名
夏休みの思い出を報告しよう
(第2学年) A 話すこと・聞くこと

内容のまとめり
第1学年及び第2学年
〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力〕「A 話すこと・聞くこと」

Step2
単元の目標と言語活動の設定

1 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1) オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1) イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1) エ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

目標は「学びに向かう力、人間性等」

2 単元で取り上げる言語活動

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(2)ア)

- ・(1)(2)(3)は、文末を「～できる。」
- ・(4)は、文末を「～しようとする。」

Step3
単元の評価規準の設定

国語科では、指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には「内容のまとめりごとの評価規準」が「単元の評価規準」となります。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。〔(1)オ〕	① 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。〔A(1)イ〕 ② 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことに落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。〔A(1)エ〕	① 進んで(1)、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え(3)、学習の見通しをもって(2)報告しようとしている。(4) 1.粘り強く積極的に、進んで、粘り強く等> 2.自らの学習の調整<学習の見通し>をもって、学習に沿って、今までの学習を生かして等> 3.「知識・技能」や「思考・判断・表現」において、特に粘り強さを発揮してほしい内容を明確にします。 4.自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を明確にします。

国語では、指導する一領域を「(領域名)において」と明記します。

- ・文末を「～している。」

Step4

単元の指導と評価の計画の決定

- ・単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

Step5

評価の実際と手立ての想定

- ・「おおむね満足できる」状況(B)の例、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定します。

4 指導と評価の計画 (全7時間)

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等											
1	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。 ○夏休みの思い出を複数想起し、その中から最も友達に一番報告したいことを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の伝えたいという思いを引き出すために教師が自身の思い出を紹介するなどして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・夏休みの思い出の中から、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶように指導する。 	<p>記録に残す評価と改善に生かす評価を明確に区別する等、工夫します。</p> <p>「評価する観点」「評価方法」「おおむね満足できる状況(B)」を示します。</p>											
2 3 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center; border: 1px solid black;">おわり</td> <td style="width: 50%; text-align: center; border: 1px solid black;">中</td> <td style="width: 25%; text-align: center; border: 1px solid black;">はじめ</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle; padding-left: 5px;">■ はなしのくみため</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ ぜんたいをとおして思ったこと</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ かんじたこと</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ したこと</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ 見たこと</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ 聞こえたこと</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・ だれと・どうした</td> <td></td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「始め—中—終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。 ○「中」の部分については、第1時で選んだ一番報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 (カードの種類(例)) ・みたこと ・したこと ・かんじたこと等 ○夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く。 ※ ワークシート①参照 ○友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようとした理由をワークシート②に書く。 ※ ワークシート②参照 	おわり	中	はじめ	■ はなしのくみため	・ ぜんたいをとおして思ったこと	・ かんじたこと	・ したこと	・ 見たこと	・ 聞こえたこと	・ だれと・どうした		<ul style="list-style-type: none"> ・上のような図を児童に示し、「始め」には、「いつ・どこで・だれと・どうした」を、「終わり」には、「全体を通して思ったことをそれぞれ一文程度で記述できるようにする。 ・選んだ思い出を詳しく想起できるように、日記や写真等を基に、経験や行動を振り返るよう助言する。 ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるよう指導する。 ・物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか(例えば、経験した順に並べるなどの時間的な順序、感動の大きかったことの順に並べるなどの事柄の順序)について例を示す。 ・友達が並べたカードの順序と比べてみたり、友達と相談をしたりしながら、並べる順序を考えるよう促す。 ・最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程を振り返り、交流後の並び順に決めた理由を書くことができるようにする。 	<p>[知識・技能①] カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認 <p>[思考・判断・表現①] ワークシート①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの並び順とその順序にした理由の確認 <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師との関わりを通して並び順を見直している様子の確認 <p>・「知識・技能」や「思考・判断・表現」において、特に粘り強さを発揮してほしい内容を明確にします。 ・自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を明確にします。</p>
おわり	中	はじめ	■ はなしのくみため											
・ ぜんたいをとおして思ったこと	・ かんじたこと	・ したこと												
・ 見たこと	・ 聞こえたこと	・ だれと・どうした												

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法 等
5 ・ 6 ・ 7	<p>○声に出して、夏休みの思い出について報告する練習をする。</p> <p>○グループ内で夏休みの思い出について報告し合い、質問する。報告が終わったら、ワークシート③に感想を書く。 ※ ワークシート③参照</p> <p>○夏休みの思い出を報告するという 学習を通して学んだことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの話し方（声の大きさや速さ）について、特に良いと思ったところを伝え合うようにする。 グループ編成に際しては、前時で交流していなかった児童に報告できるよう配慮する。 聞き手は、話の内容や報告の順序に注意して聞き、それらを踏まえて自分が感じたことをワークシート③の感想欄に記述するように指導する。 本単元の目標に則して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。 	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート③</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の報告に対する感想についての記述の確認

⑦グループ内で報告を聞いた感想を書く。

ワークシート③

④アの位置に並べた順序について友達と交流する。
⑤交流した後、並び順を見直してウの位置にカードを貼る。
⑥並び順を見直した理由についてエの位置の吹き出しに書く。

ワークシート②

①カードをアの位置に並べる。
②並べた順序の理由をイの位置の吹き出しに書く。
③並べたカードの内容をアの位置に書き写す。

ワークシート①

本単元例における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

ワークシート②に児童が書いた順序についての説明の例

【主体的に学習に取り組む態度①】は、実際にカードを並べている様子（発言・行動）の観察やワークシート②「エ」の記述内容から評価しています。

低学年の児童にとって自らの学習を調整することは難しい面もあるが、中・高学年において実現できるように、その基礎を少しずつ築いていく必要があります。

そのため、本単元においては「聞き手に伝えたい」、「これを伝えたい」という思いを実現させるために、一人一人の児童が友達や教師との関わりの中で自身の学びを見つめて、それをより良くするための試行錯誤を図ることができるようにしています。

例えば、話す事柄の順序を考える際に、カードの並べ方について友達に相談している様子が確認できた児童を「おおむね満足できる」状況（B）としています。

具体的には、児童1は、最初は海に着いてからしたことを時間的な順序で報告しようとしていましたが、友達のカードと見比べてカードを入れ替えようとしていることが右に示すワークシートの記述から確認できるため、「おおむね満足できる」状況（B）と評価しています。

ただし、ワークシート②「エ」の吹き出しの記述だけでは並び順を検討しようとしている様子が十分確認できない児童については、必要に応じて問いかけるなど、記述の理由を確認しながら評価することも大切です。

一方、友達や教師との関わりを通して、カードの並び順を検討しようとしている様子が確認できなかった児童は「努力を要する」状況（C）と判断しています。

<見なおしたあと>

◆見だ(こと) (うみは青かった)	◆見だ(こと) (ほしの形のようなビニールを見た)	◆した(こと) (すなはまにうみをついでおよいだ)	◆した(こと) (いわばで、カニをつかまえて、あわを出して)
-------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------------

せしめ(こと) (うみは青かったのかを)
 ぼくは、した(こと)の中から、心(こと)している「カニがあわを出した(こと)」をさいしょにうた(こと)「しました」。
 そのわけは、ともだちが心(こと)「うみは青かった(こと)」を聞いて、そのほ(こと)うがともだち(こと)「うみは青かった(こと)」をうた(こと)わ(こと)るな(こと)あ(こと)と(こと)思(こと)った(こと)から(こと)です。

教師は、「他の並び順と比べてみたか」、「どのような並び順が分かりやすいのか」、「どのようなことが心に残っているのか」などについて問いかけ、カードの並び順の工夫に留意させるようにします。

【評価メモの例】

評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
単元の評価規準 (※◎印は重点)		①	単元における評価	①(◎)	②	単元における評価	①	単元における評価
時間		2・3・4		2・3・4	5・6・7		2・3・4	
評価方法		カード		ワークシート①	ワークシート③		観察・ワークシート②	
評価	児童1	B	B	B	B	B	B	B
	児童2	B	B	A	B	A	B	B
	児童3	A	A	A	A	A	A	A
		見たことやしたことについて思ったことを加えていたり、様子を表す言葉を用いたりしている。	A	聞き手に与える印象の記述あり。	自分の経験と関連付けた感想あり。	A	友達の並び順について助言あり。	A